

# 教職支援室便り (5月号)

令和6年 5月 10日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

**教員採用選考試験まで あと1か月  
学生の皆さん がんばっています**

教員採用選考試験（第一次試験）が、あと1か月あまりで始まります。九州各州市の第一次試験が、6月16日（日）に行われるなど、例年より早く実施する自治体が多くあります。

いよいよ迫ってきた試験に向けて、本学の学生の皆さんは、意欲的に演習に取り組んでいます。担当者としては、今後全体支援と個別支援を行いながら、教職教養、専門教養等の筆記試験対策に力点を置いて支援したいと思います。学生の皆さんには、どの分野が自己の課題であるかを明確にして、演習に取り組むことが求められます。

なお、今後の教職特別講座の計画は下欄の通りです。

日 曜	演習内容
5月 1日 (水)	生徒指導提要
5月 2日 (木)	生徒指導提要
5月 7日 (火)	個別支援 (面接演習) 教職教養・専門教養演習問題
5月 9日 (木)	個別支援 (面接演習) 教職教養・専門教養演習問題
5月14日 (火)	個別支援 教職教養・専門教養演習問題
5月16日 (木)	個別支援 教職教養・専門教養演習問題
個別支援期間	
6月16日 (日)	教員採用選考試験 (第一次) 九州各州市
6月17日(月)～7月26日(金)	夏季教職特別講座1 別途計画
7月下旬～8月上旬	教員採用選考試験 (第二次) 九州各州市
7月29日(月)～8月23日(金)	夏季教職特別講座2 別途計画
8月中旬～8月下旬	教員採用選考試験 (第二次) 九州各州市を除く自治体

次の頁には、文部科学省が公表した「令和5年度（令和4年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況（文部科学省調査）」を掲載しています。公立学校教員採用選考試験における、校種別の採用倍率、採用者数、受験者数等の動向が示されています。

なお、令和6年度（令和5年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況については、まだ公表されていません。



# 教育実習が始まります

教員免許取得をめざす学生の皆さんは、5月から7月にかけて3週間の教育実習に取り組みます。この教育実習の目的は、教師となるために必要な実践上、及び研究上の専門的な知識と技術を習得することにあります。実際の学校現場での実践的な体験を通して、教職への理解も深めてほしいと思います。教師としての資質、学校現場の問題や課題、生徒理解の難しさや良さ、授業の難しさや成就感、教師志望の更なる情熱などを体感してほしいと願います。3週間の教育実習の中では、様々な苦勞もありますが、それにも増して子どもたちの存在の尊さが感じられます。実のある教育実習にするために、全力で取り組んでください。

## <教育実習の主な内容>

### 【教育実習の内容】

#### 1日目

- 出勤簿に捺印 ○ 事務室→校長室→職員室へのあいさつ
- 職員朝会等でのあいさつ ○ 生徒への紹介、あいさつ

#### 2日目以降

- 管理職、指導教員、各主任からの指導
- 研究授業の取組
  - ・英語科、道徳、特別活動～学習指導案（細案）と補助教材を作成する。
- 一般授業の取組
  - ・英語科の授業～場合によっては、学習指導案（略案）等を作成する。
- 清掃活動の指導
- 朝のボランティア活動への支援
- 部活動見学
- 昼休み時間等における生徒との交流 等

## <過年度教育実習経験者の感想>

- 実際に働いている先生方の様子を目にして、改めて「責任の重い職業」であることを実感しました。自分が中学生だった頃、目に見えない場所で、先生方が自分たちのために頑張っていたかと思うと、感謝の気持ちで一杯になりました。
- 今回の3週間の実習を通して、様々なことを学ばせていただきました。初めての教育実習であり、中学生と関わる貴重な体験でした。これから大学での事後研修や教員採用試験を受けるに当たって、大きな力になると思います。自分が実際に教員になったとき、絶対に役立つことばかりだったと思います。
- この3週間で、本当に多くのことを学ばせていただきました。心から校長先生をはじめ、すべての先生方に感謝したいと思います。これまで漠然としていた教師という目標が、この実習を通してより鮮明になりました。この実習が自分にとっての教師としてのスタートであり、これからの自分をつくっていく土台になってくると思います。
- 「学校とはどのような場なのか」を、実習中に考えることができました。学校は、子どもたちのためにあるのだと、私は考えています。先生方は、生徒のために授業を準備し、生徒のためにあらゆる行事を考え、生徒のために夜遅くまで学校に残られる姿は、本当に尊敬すべきで目指すべき存在だと思いました。

# 道徳の教科化に思う！（シリーズ84）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「人間としての弱さへの気付きと強さへの学びを考える」をテーマに、その5として実践事例：教材「名前のない手紙」の発問構成（前半）を掲載します。

## <導入>

1 教材「名前のない手紙」について話し合う。

○ 教材名「名前のない手紙」 ○ 主題名「正義への挑戦」

○ 登場人物

・主人公「わたし」 ・クラスのリーダー「杉田光子さん」

・転校する人「吉野はるえさん」

・クラスのみんな

○ あらすじ

主人公はある日、クラスのみんなから、のけ者にされるようになります。さて、どうなっていくのでしょうか。

## <教材内容（概略）>

主人公は、突然クラスのみんなから、のけ者にされてしまう。クラスのリーダーである、光子さんからの指令だと分かるが、言い出すことができず、来る日も来る日も、ひとりぼっちの辛い毎日を過ごす。そんな日が何週間も続いたある日、自分を励ます内容の「名前のない手紙」が、筆箱に入っていることに気付く。その手紙は、それからもたびたび届けられた。やがて、同じクラスの吉野さんが転校することになる。その吉野さんはお別れの日に、クラスのみんなの前で、みんなのまねをして主人公をいじめたことを、はっきりと謝罪する。

○ 読む視点

お話の中で、登場人物の気持ちが分かるころ、考えてみたいところがあると思います。どの場面の、誰の気持ちを考えてみたいか、気を付けて読んでいきましょう。

## <展開前段>

○・・・予想される児童の反応 ◇・・・指導上の留意点 補・・・補助発問

2 教材「名前のない手紙」を読んで話し合う。

Q. どの場面の、誰の気持ちを考えてみたいか、発表してください。

○ みんなから急にのけ者にされたときの、主人公の気持ち

○ 「名前のない手紙」を読んだときの、主人公の気持ち

○ 吉野さんがみんなの前で、はっきりと謝罪したときの、主人公の気持ち

○ 吉野さんの謝罪の言葉に続いて、他の人が「わたしも。」「わたしも。」と言ったときの、主人公の気持ち

○ 主人公をのけ者にしたときの、みんなの気持ち

○ のけ者にされる主人公を見ていたときの、吉野さんの気持ち

○ 手紙を書き続けた人（吉野さん）の気持ち

○ みんなの前ではっきりと謝罪したときの、吉野さんの気持ち

◇ 登場人物の気持ちが分かるころを強調した上で、どの場面の、誰の気持ちを考えてみたいかについて自由に発表させる。またそれを受けて、登場人物や場面の絵等を活用しながら、話し合う場面を板書に位置付ける。そして、主人公、クラスのみんな、吉野さんの三者の気持ちを中心に話し合うことをおさえる。

◇ 予想した場面が出ない場合は、児童の反応を見ながら教師の方で出してもよい。

Q 1. みんなから急にのけ者にされたとき、来る日も来る日もひとりぼっちのとき、主人公はどんな気持ちだったでしょう。

- どうしてみんなのけ者にするのだろう。ひどい。
- 悲しくてたまらない。
- 学校へ行きたくない。
- 私は、そんなに嫌がられる子なのか。

補. そんなに辛いなら、先生に訴えたらよいのではないですか。みなさんはどう思いますか。

- なかなか言えるものではないと思う。
- いじめがひどくなるかもしれない。
- 思い切って、先生に訴えたらよいと思う。

(補. 自分が辛いのであれば、訴えるように思うのですが、そのままよいのでしょうか。)

- やはり、なかなか訴えることはできないと思う。
- 訴える人は少ない (いない) と思う。

◇ いじめられて辛くても、他者に言えない主人公に共感させるとともに、補助発問を通して、そこにある人間としての弱さに気付かせるようにする。

Q 2. 主人公をのけ者にしたクラスみんなは、どんな気持ちでしたのでしょうか。

- リーダーの光子さんから指令が出たからしょうがない。
- 助けてあげたいけどできない。本当は、いじめたくない。
- どうしたらよいのか、分からない。
- あまり関わりをもちたくない。

補. みんなの中には、いけないと思っている人もいたと思いますが、勇気を出してやめればよかったのではないですか。光子さんに、やめるように言えばよかったのではないですか。

- 次は自分がいじめられると思うから、できない人が多いと思う。
- いけないことは分かっているけど・・・。

(補. 人には、そのような弱さがあるのでしょうか。それでよいのでしょうか。)

- それではいけないと分かっているけど、自分のことを考えてしまう。
- やはりいじめられるのはいやだ。

◇ 勇気を出して行動したいが、なかなかできない人間としての弱さについて話し合う。授業の流れによっては、補助発問「人には、そのような弱さがあるのでしょうか。それでよいのでしょうか。」を投げかけ、児童が自分との関わりの中で、その弱さを感じるようにする。

◇ Q 1、Q 2では、主として人間としての弱さを取り扱い、その気付きをねらうが、Q 3から人間としての強さへの学びをねらうことから、Q 3へのつながりを必然性のあるものにする。そのために、「人には弱さがあるのですね。しかし、弱いだけではない、強さもあるのではないですか。」などと、児童に語りかけてQ 3に入る。

この後の発問構成については、紙面の都合で、次回の教職支援室便り (6月号) に掲載したいと思います。